

市長記者会見記録

日時：2026年6月30日（火）14時00分～15時02分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【議題】

《川崎市・DeNA・京急電鉄をはじめとする官民が一体となり賑わいを生み出す新たな都市型フェス『KAWASAKI FESTIVAL』初開催決定！》

【司会】 ただいまより、定例市長記者会見を始めます。本日の議題は、「川崎市・DeNA・京急電鉄をはじめとする官民が一体となり賑わいを生み出す新たな都市型フェス『KAWASAKI FESTIVAL』初開催決定！」となっております。

まず、本日の記者会見に御同席いただいている方を御紹介いたします。

中央側から、KAWASAKI FESTIVAL 2026 実行委員長でいらっしゃいます株式会社DeNA川崎拠点開発室室長、元沢伸夫様。

【元沢様】 よろしく申し上げます。

【司会】 副実行委員長でいらっしゃいます京浜急行電鉄株式会社取締役常務執行役員、杉山勲様でございます。

【杉山様】 杉山でございます。よろしくお願ひいたします。

【司会】 初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 それでは、私からKAWASAKI FESTIVALの開催について御説明させていただきます。川崎市も参画するKAWASAKI FESTIVAL 2026 実行委員会は、11月1日と3日に川崎駅周辺を舞台にKAWASAKI FESTIVALを初開催いたします。

本イベントは、「挑戦」をコンセプトに、ライブ、パフォーマンス、トークセッション、体験型企画など多彩なコンテンツを展開し、来場された方が楽しみながら、多くの出会いや様々な体験ができる場とするとともに、挑戦する者を皆で応援し、挑戦者が互いにたたえ合うような祝祭を目指します。

本市は全国の政令指定都市の中で最も平均年齢が若く、活力に満ちた都市です。これまでも課題をチャンスと捉え、挑戦を重ねることで、産業都市として発展してきただけでなく、音楽、アート、スポーツなど多彩な文化も育んでまいりました。国内外

からのアクセス性に優れる川崎駅周辺では、2030年開業予定の「Kawasaki Arena-City Project」をはじめ、新たなまちづくりが進行しており、今後は、文化・エンターテインメント・ビジネスが交わる都市拠点として、さらに大きな可能性を持つエリアと変化してまいります。その進化を加速させ、まち全体へその鼓動を波及させるためには、川崎のまちに関わる人たちが集い、ともに挑戦することにより、新たな価値を発信していくことが必要です。

また、このような挑戦が次の挑戦となり、こうした循環は挑戦する者同士がたたえ合う場や挑戦者への応援や称賛から生まれ続けます。その舞台として、川崎の多様な文化を融合させ、まち全体でより大きなにぎわいや熱気を生み出すことを目的とした共創の都市型フェス、KAWASAKI FESTIVALを開催します。そして、世界有数のフェスとなるよう目指してまいります。

このたび、官民一体となり、川崎市、株式会社DeNA、京浜急行電鉄株式会社をはじめ、複数の企業・団体から構成される実行委員会を立ち上げました。本フェスティバルは、今後も多様な主体とまち全体を巻き込みながら、新たな川崎の顔へと成長し、将来的には国内外から新たなことに挑戦したいという意欲と才能のある人たちが集う目的地へと進化していくことを目指してまいります。

本日は実行委員会を代表しまして、実行委員長である株式会社DeNAの元沢様、副実行委員長である京浜急行電鉄の杉山様にお越しをいただいております。

それでは、今年のおフェスティバルの内容について、実行委員長の元沢様から御説明をお願いいたします。

【元沢様】 ただいま御紹介いただきました株式会社DeNAの元沢と申します。このたび、KAWASAKI FESTIVAL 2026の実行委員長を拝命いたしました。以降、よろしくお願いいたします。

早速ですが、KAWASAKI FESTIVALの内容について私から御説明させていただきますと思います。スライドを見ながらお聞きいただければと思います。

まず、KAWASAKI FESTIVALとはということで、改めて官民が一体となり立ち上げる新たな形の都市型フェスティバルでございます。先ほど市長もお話しいただきましたが、2030年に京急川崎駅隣接に川崎アリーナが開業いたします。DeNAと京急様でアリーナをつくります。このアリーナは、単純にハードだけではなくて、まちのにぎわいをつくるというソフトコンテンツ開発もハードと一緒に並行して行うというのがこのプロジェクトの一番の肝でございます。このKAWASAKI FESTIVALはまさにソフトコンテンツの開発、まちをにぎわわせるコンテ

ンツ開発という取組の代表的な一手だと、そんなふうに思っております。川崎が持つ多様な文化の魅力を融合させて、まち全体でにぎわいをつくり出し、国内外のなるべく多くの方々に川崎の魅力をお伝えする、そんなフェスティバルにしていきたいと思っております。

続きまして、コンセプトでございます。このフェスティバルのコンセプトは、「Challenger's Fes」でございます。様々な才能が集い、交流し、全ての人の挑戦をたたえ合う非常に活気あふれる場をつくる、まち全体を盛り上げていきたい、そんな思いを込めております。

続きまして、イベント名称とシンボルマークについてでございます。名称は、これは市長を含めてああだこうだといろいろ検討いたしました。結果的に非常にストレートな「川崎」と「フェスティバル」をつなげております。川崎のアイデンティティをストレートに表現をしております。シンボルマークは川崎のKと、挑戦の鼓動、そして川崎の愛情を示すハート、Kとハートを組み合わせたモチーフにしております。この名称とシンボルマークによって、フェス全体の一体感を生み出す役割を担っていきたく思っております。

続きまして、コンテンツとエリアマップでございます。少し画面が見づらいかもしれませんが、お手元の資料を見ながら御確認いただければと思っておりますが、イベントは2日間行われます。11月1日、1日目が緑で表示している「CULTURE DAY」、2日目が11月3日のオレンジで表示している「LIVE DAY」でございます。この2日間を横断する「&CHALLENGE」という取組がございます。この3つの取組で構成をしております。川崎駅周辺を非常に広く使いまして、音楽、ライブ、ダンスなどのパフォーマンス、トークセッションなど非常に多彩なコンテンツが集結する2日間になる予定でございます。

簡単に、この6つの主要なイベントの御紹介を一言で申し上げていきたいと思いません。

まず、みんなの川崎祭、こちらはもう皆さん御存じかと思っておりますが、この市庁舎通りが歩行者道路となり、そこで川崎の多彩なカルチャーが集結して、様々なイベントを体験できるお祭りでございます。Colors, Future! Summit、こちらは多様なゲストが登壇するトークカンファレンスイベントでございます。

京急川崎ホームパーティ、こちらは京急川崎駅のホームと、今回は駅前道路までを舞台にしたビールとフード、ジャズのエンタメイベントでございます。

LIVE STOCK、今年は川崎のミュージアとクラブチッタ、この2つの会場で

行う音楽ライブでございます。

Commons、これは入場無料の物販イベントで、音楽ライブをやったアーティストさんが、自分の私物などを直接アーティストが売のような体験型の非常にユニークな面白い物販イベントでございます。

最後、かわさきジャズ、現在14歳のジャズピアニスト、Ai Furusatoさんの川崎凱旋公演となっております。

非常に多くのイベントが集結する2日間でございます。来場者の方には各イベントを楽しみながら自然にまちを回遊していただいて、イベントの後には商店街に立ち寄り、お店で飲食をしたり、周辺の商店や地域経済にもポジティブな効果が生まれるんじゃないかと、そんなふうに考えております。

この3つ目の「&CHALLENGE」の部分、次のページになりますが、ここがまさに本フェスティバルのコンセプト、チャレンジャーズフェスを体現する取組でございます。少し補足させていただきます。3つございます。

1つは、まず何の挑戦かという、まずは各イベントの主催者がしっかり挑戦していこうというのが1つ目でございます。例えば、音楽ライブ、LIVE STOCKは去年500人の会場でやりました。今年は1,300人の会場と2,000人の会場、2つの会場でやります。パワーアップしていきます。京急さんのホームパーティも、今までは京急川崎駅のホームの中だけでやっていたんですけども、今年は外まで出て、歩行者天国も使う、私が言うのもなんですけれども、非常にチャレンジングな、京急さんならではのイベントになっております。このように主催者がまずしっかりチャレンジをする。

2つ目、町なかに複数のステージをつくります。そこで、音楽とかアーバンスポーツとか様々な分野で日頃挑戦してチャレンジしている方々向けにパフォーマンスのお披露目をする場をつくりたいと思います。これを町なかにたくさんつくって、パフォーマンスをしてもらおう。まさに挑戦者のためのステージを町なかにたくさんつくりたいと思っています。

最後に、このKAWASAKI FESTIVALは、一般の市民の方や来場者一人一人のやってみたいなという思いを具体的なアクションに変えていく、挑戦する第一歩を後押しする場にしていきたいと思っております。その受皿となるプログラムが「&CHALLENGE PROGRAM」というものを、いわゆる公募のプログラムを複数、これから今日を皮切りに回していきたいと思っております。

第1弾として、この後、「&CHALLENGE PROGRAM」の第1弾として、

みんなの川崎祭で実施するファッションショー、ファッションショーをやるんです。このファッションショーの参加モデルを公募いたします。こういった公募のプログラムをこれからたくさん回していきます。詳しくはウェブサイトをご覧いただきたいと思ひます。皆さんの挑戦を心よりお待ちしております。

最後になります。目指す姿でございます。このイベントは、KAWASAKI FESTIVALは一過性の、花火のように打ち上げるイベントではございません。いきなり完成形というよりかは、しっかりまちの皆さんと汗をかいて、どんなイベントがいいか作り込んでいく、中長期的にしっかり育てるというスタンスで臨んでいきたいと思ひています。そのためにまずは、参画いただく企業・団体の輪をどんどん広げていきたいと思ひます。さらに魅力的なコンテンツを拡充していきたいと思ひます。

先ほど市長からお話があったように、市民の方だけではなくて、国内外から多くの人に目的地として来てもらうような、そんなフェスティバルに育てていきたいと思ひています。KAWASAKI FESTIVALから生まれる川崎の未来を皆様とともに作り上げていきたいと思ひております。

以上でございます。御清聴ありがとうございました。

【司会】 それでは、ただいまの議題に関する質疑応答に入ります。なお、市政一般に関する質疑につきましては、議題についての質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、初めに幹事社様、よろしくお願ひいたします。

【読売（幹事社）】 読売新聞です。よろしくお願ひいたします。官民一体のということなんですけれども、先月の記者会見でも、官民連携相談窓口というのがありました。官民一体でのまちづくりというのが強く出てきているような気がするんですけれども、官と民のそれぞれの立場から、このフェスティバルにかける思いを聞かせていただきたいと思ひます。

【市長】 ありがとうございます。この前の共創のプラットフォームのときもお話ししましたけれども、市制100周年のときにつながった官民の絆が今もさらに強くなってきていると思ひていまして、こういったそれぞれの官民のいいところを重ね合わせることによって、また新たな価値が生み出せると考えております。そういった意味で、これまで取り組んできたフェスをもう一回、KAWASAKI FESTIVALという形で大きくリブランディングして、先ほどもありましたけれども、世界の皆さんに目的地として来てもらえるような、そういった挑戦者のステージというものをしっかり用意していきたいなと思ひています。

【杉山様】 京浜急行電鉄でございます。御質問ありがとうございます。官民ということでございますけれども、私ども、「私」の鉄道会社でございますので、基本民間ということでございますけれども、どこの行政様とも御一緒にいろんなことをやらせてもらっておりまして、かつては自前でいろんなことをやっていこうじゃないかということではいろんなことをやってきたんですけれども、なかなか今自前、自分の会社だけでできることが限られてございますので、地元で働いている方、地元に住んでいる方、そして地元の企業様、そしてもちろん行政の皆様と一緒にしながら、知恵を絞っていこう、そんなことをさせていただいております。

それがまさにエリアマネジメントという考え方でございまして、地元の行政様、それから今回D e N A様と御一緒させていただきますけれども、そういった方々と、それぞれの持っている知見ですとかアセット、これを提供し合いながら、まちのにぎわいづくりに取り組んでいきたい、そんな思いで今回も参加させていただきたいと思っております。

以上でございます。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。とはいえ、コンセプトにある、今もお話に出ましたけれども、挑戦する人たちが集まる目的地というのはちょっとイメージしづらいんですけれども、その辺をもうちょっとイメージが湧くような感じで説明していただけますか。

【市長】 例えばこの10年ほど、若者文化というものを川崎は非常に応援してきました。応援することによって、新しくこういった文化に挑戦したいという方々が、川崎市外に住んでいた方が川崎市に引っ越してくる。あるいは川崎にチャレンジするステージがあるということによって、みんなが集まってきて、今や一大拠点となっています。日本の若者文化の発信拠点となっていると思います。こういった取組をさらに爆発させていくということだと思えます。そうすることによって、若者文化だけではないですけれども、何か挑戦するんだったら川崎に行こう、川崎でやろうという形にさらになるのではないかなということをご期待しております。

【読売（幹事社）】 今年度のフェスとしては、既存のあれを統合的に行うということではございますけれども、今年度から挑戦というような部分は当然出てくるということなんですよ。

【元沢様】 はい。もちろん時間ですとか物理的な制約はありますけれども、可能な限り多くの方々の挑戦を後押しするような取組を行っていききたいなと思っております。

【NHK（幹事社）】 幹事社のNHKです。多彩なコンテンツを今回KAWASAKI

I FESTIVALでやられるというお話があったと思うんですけど、分かりやすいように、目玉となるイベントとかそういったものについて教えていただけますでしょうか。

【元沢様】 具体的な、例えばオープニングイベントだったりフィナーレイベントは今まさに企画しているところでございます、これは固まり次第、しっかりまた御報告したいなと思うんですけども、先ほど申し上げた6つのイベントはどれが主役かという、全部主役じゃないかなと思ってまして、それぐらい、川崎にあるいろんなエリアでいろんなコンテンツを、まさに同時多発的にやっているんですよ。100%見ることはむしろできないんじゃないかなと思ってまして、お好きなものを来場者の方が選んで楽しんでもらう。食がよければ食のイベントも何か所でもやりますし、音楽も何か所でもやりますし、ダンスを見なければダンスのステージもありますしというように、来る方々の好みに合わせて、何か必ず面白いものがあるぞというようなイベントにしていきたいと思えます。

来年以降、いろんなコンテンツを編成する中で、おっしゃっていただいたような、KAWASAKI FESTIVALといえればこれみたいなのは徐々に徐々に作り上げていきたいなと思ってます。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。あともう1点、警備のことについてお伺いしたいなと思っているんですが、これだけ人がたくさん来る都市型フェスで、広く使われるということだと思えるんですけども、たくさんの来場者が来ることが予想される中で、どういうふうにするのか、対策を考えているのか教えていただけますでしょうか。

【市長】 昨年もみんなの川崎祭をはじめ、複数のイベントをかなり同時多発的にやっておりました。警備員の方もそうなんですけれども、川崎市の本市の職員もボランティアで、楽しみながら警備するということを相当な職員が自発的にやってくれているというのがありますので、みんなで力を合わせて安全なフェスにしたいと思えます。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 幹事社様、よろしいでしょうか。

それでは、質問される場合には挙手をお願いいたします。

神奈川新聞さん。

【神奈川】 神奈川新聞ですけども、福田市長にお願いします。市長、先ほど世界有数のフェスを目指したいというようなお話をされましたけれども、具体的に、世界

各国でやっているこんなフェスに並ぶようなフェスを目指すんだみたいな、想像しているものはありますか。

【市長】 1つ例に出すと、アメリカのテキサス州オースティンでやっているサウス・バイ・サウスウエストというフェスがあるんですけども、最初は700人ぐらいで40年ぐらい前に始まった小さなイベントは、今や30万人とか50万人集まるというような、何か新しいものを発表するんだったらサウス・バイだよねという、そういう位置付けになっていると思います。川崎のこのフェスも、何かチャレンジするんだったらこのステージへと、何か新しいものを発表するんだったらここだと、世界中の人たちがここで発表したい、ここでチャレンジしたいという舞台になる、まさに世界を目指してやっていくということをつくり上げていきたいと思っています。

【神奈川】 あまり国内でそういうものを想像できないですけども、日本初みたいなところになるんですか。

【市長】 コンテンツ的にはそういうふうになっていくと思います。確実にそういうものにしたいという意気込みを持っています。

【神奈川】 さっきの安全面の話じゃないですけども、今回の初開催は約何万人を想定しているとか、そういうのはありますか。

【元沢様】 具体的な人数は、やるコンテンツがもう少し固まり次第、その辺もしっかり固めていくんじゃないかなと思っています。

【神奈川】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

かわさきFMさん。

【かわさきFM】 かわさきFMです。2年前から「みん川」のイベントが始まって、どんどんパワーアップしているなという感じが今日も感じられたんですけども、まだ情報解禁はこれからということと言えることも限られていると思うんですが、今の段階で市民の皆さんに期待してほしいことですか、何か呼びかけがありましたらお願いできればと思います。

【市長】 今年の11月1日、3日は、アジアで最もホットなエリアになると思います。そういうことを目指してまいりたいと思っていますので、ぜひ市民の皆さんはもちろんのことですけども、市外の皆さん、ぜひ川崎にお越しいただきたいと思います。

【かわさきFM】 よろしければ、DeNAさんと京急さんも、ぜひ市民の皆さんに何かメッセージがありましたら、期待してほしいポイントなどを改めて教えていただ

けますでしょうか。

【元沢様】 じゃ、私から。いろいろありますし、まだ固まってないことはもちろんあるんですけども、これは個人の思いも非常に強くありますが、先ほど申し上げた、やっぱりチャレンジャー、挑戦する人をたたえるという深いコンセプトがありまして、町なかのステージで、多分今までもそういう方々のパフォーマンスはあったんですけども、より一層、特にこの川崎の市内で、実はものすごいスキル、技術を磨いている方々って本当にたくさんいらっしゃるんですよ。本当にたくさんいて、そういう方々を一人でも多くフックアップして、町なかステージで皆さんに知ってもらいたいなと思っているので、こんな身近なところにこんなスターがいるんだ、すごい人があるんだというのを知ってもらいたい、そんな場になればいいなと思っています。

【杉山様】 京急電鉄でございます。私どもは、京急川崎の駅のホームの上で、本物の電車を係留させていただいて、その中で飲食ですとか、あとジャズの生演奏を聴いていただくというイベントをさせていただく予定でございますけれども、日本、いろんな鉄道会社がありますけれども、本物の係留中の鉄道の電車の中でそういったイベントをやるという会社は少ないんじゃないかなと自負してございまして、これは当社のチャレンジの一つと想着ございます。したがいまして、ぜひ駅のほうにお越しただいて、本物の鉄道を見ていただいて、本物のジャズを聴いていただいて、地元の本物のおいしいものを召し上がっていただく、そんなことを皆さんで楽しんでいただける2日間になっていただければなと思着ございます。

以上です。

【かわさきFM】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

産経新聞さん。

【産経】 産経新聞です。よろしくお願ひします。先ほど、人数についてはこれからという話があったんですけども、大ざっぱなところでいいので、規模感のイメージが湧かないので、数千人とか数万人とか十数万人とか、お願ひします。

【市長】 参考までになんですけども、去年は、みんなの川崎祭とColors, Future! Summitだけで13万5,000人お見えになっていますので、今回はそれをかなり上回るのではないかと思ひます。

【産経】 じゃ、20万人ぐらいとかですか。

【市長】 どうでしょうか。先ほど元沢会長が言われたように、コンテンツで大分違ってくるのではないかなと思ひます。

【産経】 コンテンツのところ、参加型公募プログラムというのは幾つぐらいを想定しているのでしょうか。

【元沢様】 すみません、まだその数も確定はしておりません。なるべく多くやりたいなと思っていますし、子供からシニアの方まで、いろんなジャンルで頑張ってる挑戦していらっしゃる方がいらっしゃいます。なるべく多くやりたいと思いますが、舞台を最後まで町なかステージをつくれるか、時間的なタイムスケジュールをどうするかというのはまさに今最後詰めておりますので、もうしばらくお待ちいただくと全容が見えてくると思います。ただ、相当な数の公募プログラムは走らせる予定でございます。

【産経】 言えないことばかりかもしれないですけど、先ほど飲食の話もあったじゃないですか。そういうのを含めると、ブースとかステージとかで、本当に大ざっぱでいいんですけど、3桁まで考えているのか、数十なのか、大体どれぐらいの回るところを想定しているのでしょうか。

【元沢様】 ステージの数だけではなくて、飲食ブースも含めて……。

【産経】 そうですね。来た人が行くところというのは、寄れるものってどれぐらい……。

【元沢様】 まさにこのコンテンツマップが一番分かりやすいかなとは思っているんですが、色づけしてあるエリアでコンテンツがあります。L I V E S T O C Kなんかは会場の中で音楽ライブをやるので基本的には中なんですけれども、それ以外はオープンなイベントになりますので、それぞれ小さいステージがあったり飲食ブースがあるようなものになりますので、色づけしてあるところそれぞれに何らかのブースだったり飲食スペースがあるとお考えいただければと思います。

【産経】 あとこれ、11月1日と3日じゃないですか。この日程設定って、それこそ土日で2日連続でやるということもあったと思うんですけども、中1日空けたこの日程設定を選んだ理由を教えてください。

【元沢様】 まず、KAWASAKI F E S T I V A Lの今年におけるメインの一番大きいお祭りがみんなの川崎祭でございます、みんなの川崎祭は基本的に今年ワンデイで行うというところがございます。まず、それが11月1日に決まりまして、どちらかという、イベントをもう少し日数を拡大する意向の中で11月3日が追加で加わったようなイメージでございます。

【杉山様】 京急でございます。私ども逆に、ホーム上でパーティーをするということでございますので、平日の運用がなかなか難しく、準備も含めると、どちらか

というと1日をメインなんですけど、3日というよりは、31日の土曜日と1日の日曜日、この2日をメインにさせていただきまして、3日につきましては少し規模を縮小して参加させていただく形になりますので、少しメインの日にと外れてしまうんですが、31日からホームでお楽しみいただける、そんな形になってございます。

【産経】 そうすると、11月1日って書いてありますけど、一部は10月31日からやるということですか。

【杉山様】 私どものイベントについては31日からになりますが、このイベントそのものは1日、3日と御認識いただいて、その前夜祭みたいな形で31日があるんだと捉えていただけるとよろしいのかなと思います。

【産経】 2日は何にもやらないんですか。

【元沢様】 2日は派生イベントが、もし今後いろんな意味で余裕ができれば何かしら企画はしたいと思う一方で、先ほども御質問いただいたように、やはり警備の問題ですとか、日数が延びる分、運用の大変さも増えてきますので、基本的には1日と3日、日曜と祝日に絞ってやっていきたいなと思っています。来年以降は日程の取り方等々を踏まえて、まだ何も決まっておきませんので、むしろ土日にやったり、もう少し日数を長くすることも踏まえて、来年以降はまた設計していきたいと思っています。

【産経】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、フォトセッションを設けさせていただきたいと思います。レイアウト変更いたしますので、少々お待ちください。

(写真撮影)

【司会】 よろしいでしょうか。それでは、これで議題については終了させていただきます。本議題の関係者の皆様につきましては御退室をお願いいたします。

レイアウト変更いたしますので、少々お待ちください。

【話題提供】

≪友好都市提携30周年を記念して、市長が富川市を訪問します≫

引き続きまして市政一般に入りたいと思いますが、本日、話題提供といたしまして、「友好都市提携30周年を記念して、市長が富川市を訪問します」がございます。

それでは、まず福田市長から本話題提供について御説明いたします。市長、よろしくをお願いいたします。

【市長】 大韓民国・富川市への川崎市代表団訪問について話題提供させていただきます

ます。

本市と富川市は平成8年に友好都市提携を結び、今年で30周年を迎えることから、市議会議長、川崎商工会議所会頭らとともに川崎市代表団を編成し、7月2日から7月4日まで同市を訪問するものでございます。今回の滞在では、趙甬翼市長を表敬訪問し、今後の両市の友好関係等を確認する確認書を取り交わします。

また、市内施設等を視察するほか、環境分野をテーマとしたフォーラムに参加し、両市の脱炭素施策等について意見交換を行う予定です。

なお、本市と富川市との交流の詳細につきましては、次ページの資料を御覧いただければと思います。

私から以上でございます。

【司会】 それでは、ただいま御説明しました件と市政一般に関する質疑を併せてお受けいたします。

初めに、幹事社様、よろしくお願ひいたします。

【読売（幹事社）】 まず、この議題で……。

【司会】 市政一般も含めて。

【市政一般】

《特別市について》

【読売（幹事社）】 私のほうからは1点だけ。特別市に関してなんですけれども、知事との4首長の懇談会がありますよね。あれ、2回目の開催を申し入れたということなんですけれども、今のところ、知事側が消極的で、開催できるのかどうかよく分からないんですけれども、見た感じとしては、3政令市と県とあと30市町村、対立の構図のような見方になってきていますけれども、今の状況について市長はどのようにお考えになっていますかね。

【市長】 非常に対立的なことになっている構図は極めてよろしくないと思っています。なるべく分断が起きないように客観的かつ冷静な、データなどに基づいて、しっかりと制度のことについて議論していくことが大事だと思っていますので、まず、知事には、4首長懇談会をしっかりと受けて、出席いただいて、その中で冷静に議論をしたいなと願っております。ぜひお受けいただきたいなと思っています。

【読売（幹事社）】 知事はややかたくななような印象を受けるんですけれども、まずやっぱりその場に出てきてほしいという思いですかね。

【市長】 そうですね。やはり30市町村の皆さんも県の主張に基づく話をされていますので、まず県と私たちというところがしっかりと、繰り返しになりますけれども、

冷静かつ客観的なデータに基づいた議論をするべきだと思っております、正しい理解をしていただきたいと思っておりますので、まずはそこからだろうと思っております。

【読売（幹事社）】 分かりました。いいです。

《教員の不祥事について》

【NHK（幹事社）】 NHKです。まず、教員の不祥事について伺いたいと思います。昨日、特別支援学校の副校長が懲戒免職の処分の発表があつて、市の教育委員会をめぐっては5月にも、教員が児童に対するわいせつ事案の発表がありました。教員の不祥事が相次いでいることに対する受け止めについて伺わせてください。

【市長】 本当に教員の皆さんって高い倫理感を求められる職業だと思います。そして、公務員としての立場をしっかりと自覚していただいて、教員って子供たちを教育していく立場でありますので、倫理感が極めて高いレベルで求められると思います。そのことを改めて教育委員会には認識をいただくと。繰り返しになりますけれども、このような不祥事が起きないような環境づくりをしっかりとやっていただきたいという思いであります。教育委員会としても、本庁の課長級の職員がそれぞれの学校現場に向いて、改めて不祥事防止に対する取組を徹底すると聞いていますので、そこにまずは期待したいと思っております。

《令和8年台風第7号及び第8号について》

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。続いて防災対策について伺いたいと思います。先週末の台風で、神奈川県内に被害が出ていました。今後台風シーズンが本格化していくと思うんですけれども、それに対してどのように防災対策を進めていくか、市長の考えを伺わせてください。

【市長】 本市とすれば、この前の台風の時も、例えば前回の広報みたいなことはもう少し工夫できたのではないかとこのことを踏まえて今回対応したとか、あるいは台風の接近の時間に前倒すような形で避難所設置をすとかということは、だんだん、だんだん精度が上がっていくようにしなければならないと思っておりますし、今回の台風のことについても、早めにどうであったのかということを検証して、さらに精度を高めていこうということも今日も確認をさせていただきました。

市民の皆さんには、やはり正しい情報に基づいてしっかりと行動していただくということにもぜひ御理解をいただきたいと思っております、自らの命を自ら正しい情報を得て行動するということをぜひ心がけていただくような、そういった周知広報もしていかなければならないなという課題としてはあります。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 それでは、そのほか御質問される方は挙手をお願いいたします。

東京新聞さん。

【話題提供】

《友好都市提携30周年を記念して、市長が富川市を訪問します》

【東京】 東京新聞です。2つ伺います。

まず、富川市訪問についてですが、予算額とか随行の人数を教えてください。また、富川市は映画に力を入れていることで世界的に有名ですが、市長は何か好きな映画とかあるんでしょうか、併せて伺えればと思います。

【市長】 まず1つ目ですが、私、議長、会頭の3名と随行職員4名、計7名で伺います。経費としては116万円を予定しております。

それから、ファンタスティック映画祭、今回もお招きいただきまして、前回、20周年のときもお招きいただいたんですけども、非常に国際的な映画祭ということで、映像のまち川崎という形で取組を進めておりますので、非常に参考になるというか、すばらしい取組をされているということをもたまたま勉強してまいりたいと思っています。

好きな映画、今見たい映画といえば、「Michael／マイケル」は見たいと思っていますが、最近あまり見てないですね。好きな映画は山ほどありますけれども、今ぽっと浮かびません。すみません。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

朝日新聞さん。

【市政一般】

《特別市について》

【朝日】 朝日新聞です。お疲れさまです。特別市に関してなんですけれども、知事の側とすると、ステークホルダーも多いということもあって、議論する場所としてももう少し広い場というようなイメージを持つんですけど、逆に政令市側が4首長懇談会にこだわる理由というのは何でしょうか。

【市長】 まず、先ほど御説明したように、要は県の主張というのは非常にミスリードしていると私たちは考えておまして、まず県のところでお互いの理解を深めないとその先はないと思っておまして、30市町村の話というのは、県から聞いた話で、私どもからするとミスリードされているということなので、そこの大本のところをちゃんと正していかなくちやいけないという思いがありまして、そういう意味で4首長懇談会でしっかりと冷静に議論することが何よりもまず大事だと、それが第一歩だろうとは思っています。

【朝日】 では、各市町に関しての情報というのは県から出ているので、まずそこをきちんと整理してから議論しないと、ある意味拡散されて、間違っただ情報での議論を広い場でやってしまうのは逆に混乱すると、そういう認識……。

【市長】 まず、そこの元を整理しないと、大変困惑されるのではないかなとは思いますが。

【朝日】 その辺の情報の出し手の件が少し認識に誤解があるのではないかということころまず正さないと、ほかの全県レベルの議論はできにくいと、そういう手順……。

【市長】 というか、県はいわゆる680億円のお金がなくなっちゃうんだという話をいつもされるんですが、どういう根拠に基づいてそうおっしゃっているのかというのがいまだに分からないんです。ですから、そういったこともしっかりと客観的なデータに基づいて、ちゃんと冷静にお話ししましょうという話がないと、額だけ独り歩きして、それってどこから出てきたお話ですかという話ですとか、多分相当混乱させているんだと私は見ておりますが、まずそこから始めないといけないんじゃないかなと。

はっきり言って、地方制度調査会の議論が始まっているので、その中でしっかりと議論していくことも大事なんですが、間違っただ認識のままいくというのはお互いにとって本当によろしくないんじゃないかなと思いますので、そこはしっかりテーブルに着いて冷静にやりましょうということだと思います。

【朝日】 知事としても、情報源というか、何かしらのいわゆる事務方からの情報であるとかデータとかに基づかないでしゃべるといことはなかなか難しいのかなと思うんですが、そういう意味では逆に、トップレベルの議論はもちろん大事だと思うんですが、事務方、水面下というか、その辺の調整、情報の交換、その辺、県と政令市って今どういう状況なんでしょうか。

【市長】 これまでも事務レベルでは、例えばどういう情報、根拠に基づいているんでしょうかとかいろいろやっているんですが、出てこない情報のほうが圧倒的に多くて、そういう意味では、まずトップ同士で意識を合わせていくことのほうが大事なんじゃないかと思えます。

【司会】 そのほか御質問……。

神奈川新聞さん。

《市立小学校における健康診断について》

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、先日の議会で、川崎市立学校で、今年度も児童・生徒が胸部を露出した状態で健康診断を受けていたことが明らかになりました。

横浜市では基本的に着衣、相模原市でも露出を避ける運用が徹底されているそうです。こうした他都市と比べて、川崎市の対応は少し遅れているのではないかとわざわざるを得ないと思うんですが、市長御自身は今回の事態はどういうふうを受け止められたでしょうか。

【市長】 他都市の状況ですとか、これまでも医師会さん、具体的に言うと学校医部会の皆さんとも意見交換などはさせていただいてきました。その中で、国の方針、要綱に基づいてやっているということなんですけれども、完全に学校ごとに今回2校ということで、一部抜粋したところで2校出てきて、全校調査をするということなんですけれども、対応が分かれるというのは、医師の裁量といえども統一すべきなんじゃないかなと思ってまして、そういった意味で、医師会さんと今後も意見交換をして意識合わせをしていきたいと思っています。

【神奈川】 そういう意味では、市長として教育委員会に対して改善を指示するような形の方向になるのでしょうか。

【市長】 そのように検討してくださいということは教育委員会にはお願いしました。ただ、これ、医師の専門分野が非常にいろいろあって、この専門分野からするとやはり直接診るべきじゃないかと主張されるお医者様もいらっしゃるということは聞いています。ただ私からすると、他都市の事例から見ても、そこまで必要なんだろうかというのは素人的には、だから医学的根拠に基づいてちゃんと議論されて、統一的なルールでやるべきなのではないかなと私自身は思ってまして、そこを教育委員会に調整をお願いしているところです。

【神奈川】 やっぱり時代背景というか、いろんなことが拡散する時代において、子供の尊厳を傷つけるんじゃないかというような有識者の意見もありますけれども、嫌だという子がいるという事態に対しては何らかの手を打たないといけないと思うんですけれども、その辺り……。

【市長】 健康診断というのは、まず健康をチェックするということですから、それがまず確実になされるということが一番大事なことだと思います。その上で、子供たちの心情にしっかりと寄り添うことも併せてやらなければならないと思っていますので、そこは医学的なものに基づいてちゃんと対応がなされるべきだと思います。

【神奈川】 そこは尊厳とかは関係ないと……。

【市長】 いや、尊厳は担保されるべきだと思います。ただ、健康診断が見誤ってはいけないという。過去の事例でもございました。見落としているということもありましたので、そういった一番やってはいけないことの本質的なところに障害がないよう

な形で行われるべきだと思っています。

《川崎市プレミアムデジタル商品券について》

【神奈川】 あと、ちょっと話が変わるんですけども、昨日、プレミアムデジタル商品券の申込みの結果が発表されましたけれども、大体400万口に届かず319万口だったという話ですけども、市長はこの数字はどういうふうを受け止められていますか。

【市長】 僕は大体こういうものだろうと思っていましたので、8割ぐらいかなと。2回目という形で追加募集をしていくのはこれまでもございましたので、おおむねこのぐらいかなとは思っています。

【神奈川】 そういう意味で、周知が届いてないという認識はあまりない……。今回申し込んだ感じだと、結構難しいなって僕自身は思ったんですけども。そこら辺の煩わしさというか、そういう部分でちょっと低調になったんじゃないかなって思ったところがあるんですけども、市長はどういうふうにお考えですか。

【市長】 コールセンターなどもありますけれども、あまりそのような御意見が多いとは思っておりませんが、今の応募を1回締め切った中では、8割というのは大体こういうぐらいかなという認識は持っています。

【神奈川】 今後2次募集なんかも始まると思うんですけど、改めて呼びかけとかというのはどういうふうに進めていく……。

【市長】 いろんな媒体を使ってやっていかなくちゃいけないと思いますが、特に2次募集する際には、1回目で購入されなかった方が優先という形になるので、幅広い方に御利用いただきたいと思っていますので、1次のときに応募されてない方、ぜひ2回目はどうぞ御活用いただければという形で、しっかり広報していきたいと思っています。御協力よろしく申し上げます。

《上下水道料金の値上げについて》

【神奈川】 あと、今回の議会では、水道料金の値上げについて、各会派からいろんな指摘や意見があったと思うんですけども、その中で市民に、市側は値上げするかもしれないということを伝えていると言いながらも、周知の期間が短いんじゃないかというような御意見があったと思うんですけども、市長は今後、9月議会に向けて、どういうふう水道料金については適切に正しく伝えていくとか、いかなきゃいけないと思われていますか。

【市長】 今回、皆様方が報道していただいているということも認知につながっていると思っていて、これまでも上下水道局で分かりやすい広報チラシみたいなもの

を作っておりますが、より丁寧な説明は必要だなと思っていますので、それに
尽くしてまいりたいと思っています。

【神奈川】 そこに関しては、アプリでどんどんプッシュ型で通知するとか、改めて
取り組もうというようなことは、今の時点で言えることはありますか。

【市長】 私のほうから今具体的なものはないですけども。

【神奈川】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

時事通信さん。

《特別市について》

【時事】 時事通信社です。先ほど出た特別市の件なんですけれども、仙台市、郡市
長が今日の記者会見で、政令市が特別市を目指すのは意味合いがあるというような考
え……。

【市長】 うん？

【時事】 意味合いがあると。

【市長】 特別市を目指すには？

【時事】 特別市を目指すことは意味合いがあると認識していると。多極分散型の社
会を目指しているということに対しては、既存の資源を奪い合って大都市や特別市に
資源を集中させると言っているわけではないということを答えられていまして、先ほ
ど知事との4政令都市の懇談会の中で、基本的な部分があればと。もちろん私も財源
の部分とかが理解はあまり知事のほうとかはいつてないのかなと思うんですが、知事
と懇談があったとき、やっぱりそこら辺を一番説明して、理解を深めるというような
感じでしょうか、財源を。

【市長】 逆に聞いてみたいことも、先ほどの、どういう計算に基づいてやってられ
るんでしょうかとか、話すことはたくさんあるかと思いますが、考え方の隙間をし
っかり埋めていくことが大事じゃないかと思えますし、分断を生まないようにしてい
くことが大事だと思っていますので。

【時事】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

東京新聞さん。

《東京都北区での学校火災を踏まえた対応等について》

【東京】 度々すみません。東京新聞です。先日、東京都の北区の滝野川第三小学校

で音楽室から出火するという火災がありました。その火災を受けて、市長の受け止めですとか、あとは予防に向けて、市としても、市立学校でそういった対策を今後講じるようなお考えがあるのかお聞かせいただければと思います。

【市長】 ありがとうございます。音楽室の準備室ですか、ああいうところから火が出るというのは全く想定していない話なので、そういう意味では、避難経路とかということも、普通は火の出るところってある程度特定されているからこそいろんな訓練というのがあるんでしょうけれども、そういったところで間違った運用みたいなことがされてしまうと大変危険な目に遭うということ、子供の命に重大な支障を来すことになりかねないので、そういう意味では、改めて今回の火災も受けて、学校現場での不適切な使い方だとかということ、なかなか想定しづらいんですけども、そういったことがないようにということは、改めて学校の安全管理ということでしっかりやっていただきたいと思います。

【東京】 例えば避難訓練で、従来給食室からの出火を想定していたものを見直すとか、そういった具体的な考えは今の時点にありますか。

【市長】 日頃から、安全管理の部分というのは教育委員会はかなり徹底してやっていただいている、チェックもしていただいておりますので、その辺りのところを意見交換したいと思います。

【司会】 そのほか。

t v kさん、お願いします。

《FIFAワールドカップ2026について》

【t v k】 テレビ神奈川です。よろしく申し上げます。深夜に行われたワールドカップについて、結果は残念ながら敗退となってしまいましたが、多くの川崎ゆかりの選手がこの大会で躍動したと思います。市長はこの大会をどんなふうに御覧になっていたか、もし何かあればお願いします。

【市長】 結果は残念だったですけども、日本のレベルがこれほどまでにブラジルに肉薄というか、もう勝てるんじゃないかと思うほどに躍進している姿には本当に感動しましたし、かつ、今おっしゃっていただいたように、川崎ゆかりの選手が大活躍だったものですから、そういった意味では、川崎市でサッカーをやっている子だけじゃなくて、いろんなことで頑張っている子供たちに大きな勇気を与えたのではないかなと。やればできるというような、そういう思いをみんなしたのではないかなと思います。私のようなおじさんでも思うので、子供たちはより刺激を受けたんじゃないかなと思っています。

《放置船に対する行政代執行について》

【t v k】 ありがとうございます。あともう1点、これは市長に聞く話か分からないんですけど、先ほど、今行政代執行で解体している船舶から油漏れがあったということで、かなり高額な費用をかけて今解体作業を行っていると思うんですけど、この漏れによるさらなる費用負担がもしあったら教えていただきたいんですけど。

【市長】 事務方からでよろしいでしょうか。

【港湾局】 港湾局です。報道発表いたしました油漏れの件につきましては、契約している事業者が対応する内容となっておりますので、その件につきまして、新たに追加の費用は考えてございません。

以上でございます。

【t v k】 ありがとうございます。

以上です。

【市長】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

読売新聞さん。

《令和8年台風第7号及び第8号について》

【読売（幹事社）】 読売新聞です。先日の台風6号と7号の被害についてお尋ねできればと思います。罹災証明の申請がもし出ていたら何件という数字があれば教えていただきたいのと、避難所の開設を早期にされたと思うんですけども、金曜のうちに開設されていると思うんですけども、実際に避難された方は1人だと思うんですけども、これについて、広報が足りなかったのか、それとも、被害が想定より少なかったのか、大きな風呂敷は広げたけれども、これでよかったと思われるのか、受け止めを教えてください。

【市長】 ごめんなさい、1個目が……。

【読売（幹事社）】 罹災証明の申請数です。

【市長】 罹災証明については事務方からでもよろしいでしょうか。

【危機管理本部】 危機管理本部でございます。先日の台風7号、8号の罹災証明につきましては、29日17時現在で申請等はございません。

【市長】 2つ目でありますけれども、土砂災害警戒警報が明け方に出るのではないかとということが予測されておりまして、そういった意味では避難所開設に当たる職員が現地にたどり着けないことが想定されましたので、早めに開けるという形にさせていただきました。

一方、避難された方が1人ということでありましたので、いろんな受け止め方があ
ると思います。市民の皆さんからすると、思ったほどでもないと思われたから避難さ
れなかったということか、今朝の会議でも実はそんな話をしていたんですが、発信と
受け止めというのが少し乖離があるのかもしれない。根拠はないんですけども、
同じ危機感を共有できているかというのはやや疑問なところがあるかなとは思ってお
りまして、この辺りをしっかり検証していかなくちゃいけないなと思っています。

今回開設したので、こういった災害台風の時期になりますと動員も重なってくるの
で、そういった意味では職員への負担もかなり大きくなっていくことは、それは大変
なんですけれども、ただ空振りでもいいからしっかりと整える、それでもって市民の
安全をしっかりと確保していくことが大事ですので、そういった意味ではしっかりと、
幸いにして川崎は今回大きな被害なかったですけども、本当に台風の進路が数度違
っただけで大きな被害が出るということは、千葉とか三浦とか、あの辺りなんかを見
てもそうですから、そういった意味では、常に危機感を持ってやっていかなくちゃい
けないなと思っています。今日も言ったんですけども、空振りはしようがないし、
空振ってもやっぱりやっていこうという話をいたしました。

【読売】 ありがとうございます。では、現時点では1人しか避難しなかったとい
うこと自体は、本当はもっと避難してほしいところまではいかないと
いうところですか。

【市長】 そうですね。実際、トータルの雨量もそれほど達していなかったとい
うこともありますから、これはあくまでも本当に結果論なので、ちょっとずれて、大雨が
降っていたらすぐにでも跳ね上がる状況ですから、そういった意味では、幸いにして
1人で済んだし、そういう受け止めでよかったなと思います。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問よろしいでしょうか。

よろしければ、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうござ
いました。

【市長】 ありがとうございます。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載して
います。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当